

ふれあい

第63号

グループホーム草加
草加市長栄町560
平成26年9月吉日



納涼祭



今年の夏はとても暑い日が続きましたね。
暑さを吹き飛ばそうと、8月9日（土）毎年恒例の納涼祭を開催しました。

ラジオ体操で体をほぐし、ハーモニカ同好会の演奏に合わせて歌ったり、スイカ割りで盛り上がりました。

特に家族と食べる昼食は、毎回皆さんとても嬉しそうです。



スイカ割り

楽しいスイカ割り！ でもなかなか割れてくれません。



利用者様の感想

- ハーモニカ同好会の皆さん、素敵な演奏をいつもありがとうございます。
- スイカ割り、うまく割れなくて悔しかった。
- 楽しかったスイカ割り。もっと挑戦してみたかった。
- 焼きそばやスイカがとても美味しかった。
- 家族が来てくれたのがとてもうれしかった。



暑い時期を乗りきるために栄養価の高いウナギを食べる習慣は万葉集にも詠まれているそうです。

土用の丑の日にウナギを食べる習慣は江戸時代の蘭学者「平賀源内」が知人のウナギ屋のために広めたと言われている。

またウリや梅干し・うどんなど「う」の付く物を食べるところもあるそうです。

土用の丑の日



三角巾は止血や創傷部分などの保護、感染防止、痛みを和らげる時に使います。傷口の大小にかかわらず体のどの部分にも使用でき、応急手当に有効です。

応急手当



薬を使い分けて生活改善

アルツハイマー型認知症は、脳の神経細胞が壊れ、記憶障害や判断障害の低下などが起きる。治療薬は認知症自体を治すことはできないが、一時的に進行を遅らせたりすることができ、現在アリセプトのほかに3種類の薬がある。

「できることが増えたり、認知症の進行が穏やかになったりすることで、本人の混乱が軽減され、家族も心理的な余裕が生まれて介護の体制を整えやすくなる」

ある女性の場合、診断当初は家にこもりがちだったが、服用後、習慣だったスポーツクラブ通いを再開し、家事もするようになった。だが、症状は徐々に進行。

5年ほどするとゴミ出しや着替え、化粧ができなくなり、イライラして長女に物を投げるようになった。

長女の相談を受け認知症薬のメモリーを追加することにした。使用することで穏やかになることが多く、他の薬と併用できるのが特徴だ。

服用後、女性のイライラが収まり、着替えや化粧もできるようになった。

女性はその後も、症状に応じて認知症薬を替えるが在宅生活を続けている。

ただし、認知症の治療薬への過剰な期待は禁物だ。どの薬にも効果には個人差があり、服用することで興奮が激しくなることもある。

Y新聞より

編集後記

朝夕涼しくなりました。秋の気配を爽やかな風で感じて頂けたらと空模様をみながら散歩に出かけています。

最近では気象の変動が激しく、突然の大雨・雷雨・突風・竜巻など被害のニュースが数多く聞かれます。9月は『防災の月』、9月16日草加消防署員の協力のもと、デイサービス合同で防災訓練を行います。

利用者様には高齢化・認知度の進行と慢性疾患により体調の変化もみられています。健康面や安全面により一層配慮しながら、レクを中心に楽しい毎日を過ごして頂けるよう努めていきたいと思っております。

編集者 林 田中 横川

8月9月のお誕生者



おめでとうございます!